

理科授業実践事例集の発刊にあたって

日立市教育研究会理科教育研究部長 長岡 勝典

本年度も、ここに理科授業実践事例集を発刊することとなりました。本事例集は、市内各校の理科部員の先生方から、授業実践の際に作成した指導案を集約したものであり、各先生方相互の今後の理科学習指導に活用していただくことを主な目的として、毎年度作成しているものです。

さて、既にご承知の通り、新学習指導要領が小学校においては本年度から全面実施となり、中学校においては次年度から全面実施となります。理科における改訂のポイントとしては、授業時数が小学校で55時間、中学校で95時間の増となったこと、小・中学校での内容の一貫性を重視して、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」という概念を軸に、新しい学習内容の追加や変更があったことなどが挙げられます。また、目標に着目してみると小学校では全体の目標に「実感を伴った理解」が、6学年の目標に「要因や規則性を推論」が加えられ、中学校では、全体の目標に「自然の事物・現象に進んでかかわり」が、分野の目標に「事物・現象に進んでかかわり」や「観察・実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てる」などが加えられています。

このように、今回の学習指導要領改訂（理科）では、学習内容の増加、目標の追加・変更等がありました。そのような新しい理科学習の枠組のもとでも大切になってくるのは、どのような学習活動を通して内容を定着させ、評価していくか、児童生徒に理科の学力をいかに確実に育成していくかであると考えます。そのため、我々教師は授業の工夫改善に積極的に取り組んでいくことが必要であり、効果的な理科授業を設計し実践していくための学習指導案の作成と活用がますます大切になってくるのではないのでしょうか。本市においても、本事例集を積極的に活用し、今後とも理科授業の工夫改善に取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、本事例集の発刊にあたり日立市教育委員会指導課指導主事(併)係長川崎恭子先生にはご多忙の中、懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました。心より御礼申し上げます。また、原稿を寄せて下さった各先生方、さらに企画運営にあたられた運営委員、編集委員の先生方の多大なるご尽力に対し感謝申し上げます。